

「研究大学強化促進事業」中間評価 進捗状況概要 東京大学

戦略・構想 世界最高水準の研究を担うために必要な資質・能力を備えた若手研究者の確保・育成、研究基盤の強化

方針1 優れた若手研究者の雇用の促進・安定化 方針2 若手研究者の研究力強化 方針3 研究基盤の強化

総長のリーダーシップの下、大学の戦略的な経営判断とそれに基づく先行投資により、若手研究者の雇用等を促進

方針	実績	成果	将来の戦略・構想	
優れた若手研究者の雇用促進	<p>卓越した若手の研究支援（東京大学卓越研究員制度の構築）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の卓越制度に加え、学内若手PIにスタートアップ経費を支援 人件費の多様化による若手継続ポストの創出・雇用安定化 部局の裁量により優れた若手研究者の継続ポストを創出 優れた女性教員・PIの雇用の加速 後続のロールモデルとなる女性教員・PIの雇用創出支援 若手研究者の雇用安定化に向けた本部と部局の連携強化 若手雇用支援を独自に取組む部局の研究環境整備を支援 	<p>成果 89名の若手研究者無期ポスト回復</p> <p>40歳未満の任期なし教員数の推移</p> <p>若手研究者の雇用安定化実施開始により、40歳未満の任期なし雇用の回復が89人回復。平成32年に300以上の若手研究者ポストを確保</p>	<p>研究力強化を担う基盤の構築が促進</p> <p>若手研究者／研究人材</p> <p>URA／研究支援</p> <p>IR機能／研究体制</p>	<p>構想1 未来の学術資源たる若手研究者の活躍の場の創出と支援</p> <p>若手研究者の研究力の強化・国際展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 「若手研究者支援制度」の促進による研究力強化の向上 若手研究者の研究力の可視化 若手研究者の国際的な研究力の向上
	<p>卓越した若手の研究支援（東京大学卓越研究員制度の構築）</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手PIに対してスタートアップ経費を支援 若手研究者の教授ポストへの引き上げ支援制度の構築 優れた准教授を教授へアップシフトし教授昇任年齢を引下げ 国際組織連携ネットワークの構築・研究環境の国際化 海外研究連携拠点、国際研究体制の基盤構築（WPIとの連携） 	<p>成果 教員平均年齢の上昇傾向の抑制</p> <p>教員の平均年齢の推移</p> <p><事業開始時の5年目の目標> 教員平均年齢の上昇傾向の抑制</p> <p>政府方針による定年延長（～H25）</p> <p>新規雇用縮小の解除</p> <p>当初想定された平均年齢の傾向</p> <p>教員平均年齢の上昇傾向を抑制</p> <p>若手研究者支援制度の成果の発出により、今後5年間の平均年齢低下を期待</p>		<p>構想2 研究推進体制の強化に必要な経営基盤の構築</p> <p>URAの活用やIR機能による全学的な研究推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 学術推進支援室とIRデータ室の連携強化による大学経営を基盤とした研究推進体制の強化 URA制度の定着・安定化に資するURAの認定・無期雇用化の促進 URA制度の定着・安定化に基づく全学的な研究力強化人材としてURAマネジメントの推進（産学協創、部局横断組織形成、研究倫理、研究IR等）
研究基盤の強化	<p>クロスポイントによる研究力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 他機関連携による研究力強化、研究者の雇用や流動性の確保 「学内共用研究設備システム」の強化 学内大型・高度研究設備の共用化、若手研究者への開放 東京大学リサーチ・アドミニストレーター制度の整備・運用 本学のURAの位置付け・活用の明確化に向けURA制度を整備 能力向上から質の確保、キャリアパスへと一貫した制度運用 <p>能力の向上 「URA研修」制度の構築・運用</p> <ul style="list-style-type: none"> URAに必要なスキルの明確化、全学研修の実施 <p>質の確保 本学独自の「URA認定」制度の構築・運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定の基準、プロセスを明確にし、認定開始 <p>キャリアパス URA恒久化のための無期雇用制度の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> URAのキャリアパスとして第3の無期雇用職位を整備 <p>総長室学術推進支援室の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究戦略の指令塔。部局横断組織形成や若手研究者支援などを戦略的に推進 IR機能の組織化 総長室IRデータ室の創設による大学運営上のIR機能の強化 	<p>成果 URA制度の構築による人材の拡大・質の確保</p> <p>URA認定制度・URA研修制度を通じて学内URA業務を担う者を明確化</p> <p>本学のURAの雇用が拡大する中、本学としてのURAの質の確保のため、認定を促進</p> <p>URA業務を担う者の雇用の促進</p> <p>100名+α</p> <p>100名 目標の達成</p> <p>46</p> <p>32</p> <p>H29</p> <p>H34</p> <p>本学独自の基準による認定URAに移行（質の確保）</p> <p>24</p> <p>15</p> <p>H28</p> <p>H25</p> <p>IRとの連携による研究戦略体制の構築</p>	<p>構想3 人類社会への貢献に資する「知の協創の世界拠点」の形成</p> <p>国際的に卓越した研究拠点の拡充・創設、国際協働・発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の特色であるノーベル賞級の成果を創出する卓越した研究拠点の強化 WPI事業等で培った国際的な拠点機能を基盤とした世界を先導する開かれた研究拠点の強化（大学・特定研究開発法人との連携） SDGsを活用し、新たな学知創出に資する全学横断的な研究の推進 	

中間評価結果

評点区分：A

全体に対する所見

非常に活発に研究活動を行っており、国際的な課題に対応する全学横断的な研究体制の構築・推進を示しているが、機関が掲げる方向性に基づき、取組を加速することが必要と考えられる。我が国の研究力を牽引する役割を果たすことを目標とした具体的な取組が期待される。

当初構想・計画の進捗状況に対する所見

URA 制度の定着・安定化が進み、無期雇用化に向けての人事制度も整備されつつあり、URA の研修・認定制度によって質・能力の向上にも取り組まれている。若手研究者支援制度が多様な形で機能しており、今後の展開が期待できる。

今後5年間の将来構想に対する所見

大学運営から経営への転換を掲げ、3つの戦略・構想に基づいて明確な評価指標が示されており、これまでの取組に加え、更なる発展と充実が期待される。自主財源投入の計画についても問題のない計画となっている。